



ヴェネツィア国際映画祭2015
マジックランタン賞 / ソッリーゾ・ディベルソ賞 受賞

LA BIENNALE DI VENEZIA PRESENTS

A FILM BY KOHKI HASEI

ブランカとギター弾き

日時 2019年 **8月3日(土)** ①10:30 ~ ②13:30 ~
(開場 各30分前)

会場 岩手教育会館 2F 多目的ホール (盛岡市大通 1-1-16)

※盛岡駅より 徒歩…約 15 分 / 盛岡都心循環バス『でんでんむし』(左回り)…約5分

入場 **無料**

定員 各回先着 **300名** ※定員になり次第
締め切ります。



お申し込みは

①電話 019-687-4460 ②Fax 019-687-4491 (裏面申込書)
③E-mail sn.iunicef_iwate@todock.coop にてお申込みください。



応募メールはこちら

主催

岩手県ユニセフ協会

滝沢市土沢220-3
いわて生協本部2F

共催

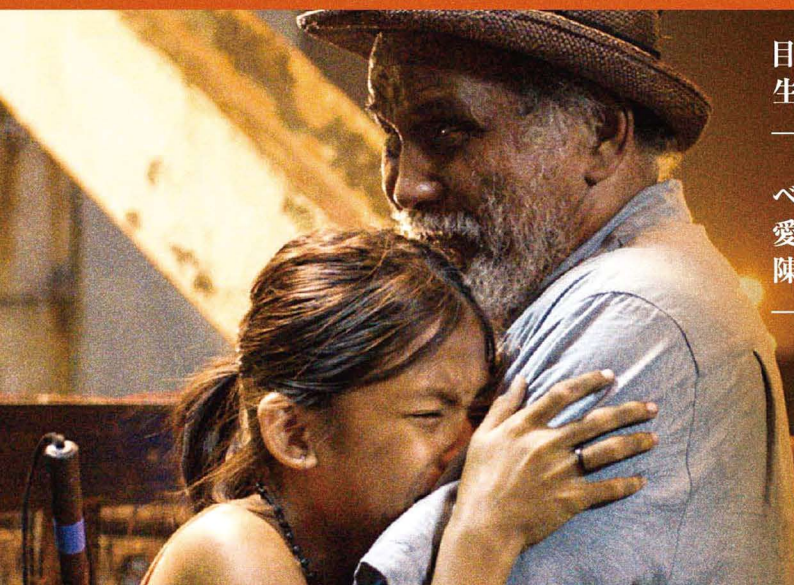


JICA東北

後援

岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、滝沢市教育委員会

ヴェネツィア国際映画祭で2冠、各国の映画祭で数多くのグランプリを獲得!



目に見えるもの、お金で買えるもの。それ以上のものが、確かにある。生きることを愛したくなる映画。

— 俵万智 (歌人)

ベッドの上で眠れるというだけで感激する少女ブランカの愛おしさは並大抵ではありません。陳腐かも知れませんが、心が温かくなる本当に素敵な映画です。

— ピーター・バラカン (プロードキャスター)

おとぎ話のような手触りを持つ、愛しい映画だ。

— レ・フィッシュ・デュ・シネマ



二人でいれば、悲しみは半分。しあわせはたくさん。夏の果ての街角を、愛の歌が通り抜けていく—

“お母さんをお金で買う”ことを思いついた孤児の少女ブランカは、ある日、盲目のギター弾きピーターと出会う。ブランカはピーターから、得意な歌でお金を稼ぐことを教わり、二人はレストランで歌う仕事を始める。ブランカの計画は順調に運ぶように見えたが、一方で、彼女の身には思いもよらぬ危険が迫っていた……。

<STORY>

日本人として初めてヴェネツィア・ビエンナーレ&ヴェネツィア国際映画祭の全額出資を得た長谷井宏紀監督がフィリピンを舞台に撮影し、各国の映画祭で高い評価を得た話題作。舞台はカラフルでエネルギーに溢れたマニラのスラム。YouTubeの歌姫として国内外で人気を集めていたブランカ役のサイデル・ガブテロは演技初挑戦ながら、美しい歌声と演技力で観る者を強く惹きつける。彼女に生きる術を教える盲目のギター弾きには、生涯を通して実際にフィリピンの街角で流しの音楽家として活躍していたピーター・ミラリ。その他、出演者の殆どは路上でキャスティングされている。劇中に演奏される、スペインをルーツにした素朴で温かいフィリピン民謡「カリノサ」は必聴だ。母親を買うことを思いついた孤児の少女ブランカと、盲目のギター弾きの“幸せを探す旅”。本作は、どんな人生にも勇気を持って、立ち向かう価値があることを教えてくれる、心温まる感動作だ。

<日本ユニセフ協会>

親や信頼できるおとな(養育者)を持たない子どもたちの実情を、孤児になってしまった少女の視線を通して描いた作品です。長年、最も貧しい人々が住むフィリピンのスラム街で活動されてきた長谷井宏紀監督が長編映画として製作された最初の作品となる本作は、フィクションではありながら、ユニセフ(国連児童基金)が全世界でその根絶に取り組むストリート・チルドレンや児童労働、人身売買など、子どもたちを脅かし、貧困の連鎖を生み、国の経済発展や社会の安定にも悪影響を及ぼす様々な問題をリアルに伝えています。

監督・脚本：長谷井宏紀
製作：フラミニオ・ザドラ(ファティ・アキン監督『ソウル・キッチン』)
撮影：大西健之
音楽：アスカ・マツミヤ(スパイク・ジョーンズ監督短編『アイム・ヒア』)
出演：サイデル・ガブテロ / ピーター・ミラリ / ジョマル・ビスヨ / レイモンド・カマチョ

8/3 ユニセフシアター

「ブランカとギター弾き」映画上映 **参加申し込み**

Fax 019-687-4491

お名前

参加人数

名

ご住所 〒

希望時間

(いずれかに○) ①10:30 ~ ②13:30 ~

電話

切り離さずこのままファックス送信してください。ご記入の情報は「ユニセフ映画上映」参加者把握のためにのみ使用します。